

# 高校地理授業における作業的・体験的学習の一事例

堀江 克浩

千葉県立銚子商業高校 1988 年 3 月卒業

## I はじめに

現在の教育現場では、地歴公民科の授業に対して、4 分の 3 の生徒が暗記科目であるというアンケート結果がある。原因の一つには、いわゆる「チョーク & トーク」と呼ばれる指導方法にもあると思われる。われわれに求められているものがこのような授業ではない。教師は一方的に知識を詰め込むのではなく、いかに生徒の興味関心を引き出すかに力を注ぐべきである。そのために常に授業力を高める努力をすることを教師は心がけなければならないと考える。本稿はそうした意識のもとづいた授業実践の紹介である。

## II 作業的・体験的な学習と地域調査

現行の学習指導要領では、地理 A、地理 B ともに地理的技能や地理的な見方や考え方を身に付けさせること、資料の収集・分析を通して地域性を追究することが求められている。こうしたねらいに効果を上げる学習方法の一つが作業的・体験的な学習である。この方法は、生徒が主体的に学習することができ、思考力、判断力、表現力などの能力を育成することができる。そして、地理的技能や地理的な見方・考え方がより深く身に付き知識・理解も深まる方法である。

実際、学習指導要領では、地理 A のねらいとして、「作業的・体験的な学習を取り入れるとともに、各項目を関連付けて地理的技能を身に付けること」を求めている。地理 B では、地理 A のようには明確には「作業的・体験的な学習」について記されていないものの、地理 B の「現代社会の地誌的考察」において、作業的な学習や体験的な学

習を取り入れる工夫が求められているのである。

こうした生徒の主体的活動を生かした作業的・体験的な学習としては、様々な方法があろう。(図 1)。とはいえ、授業時間の問題や校外学習の可能性から考えれば、作業的・体験的な学習は、地域調査と地理情報の活用の大きく 2 つに分けられる。

時間的、環境問題がクリアできるのであれば前者がより有効であろう。普段生活をしている地域について、生徒自身の目で見ることによって地域の変化を把握し、再発見することができ発展のプロセスを理解することにもつながるからである。

地域調査の一般的手法は竹内 (2002) に詳しい、本事例でもそれを参考にしながら授業を計画し実践した。

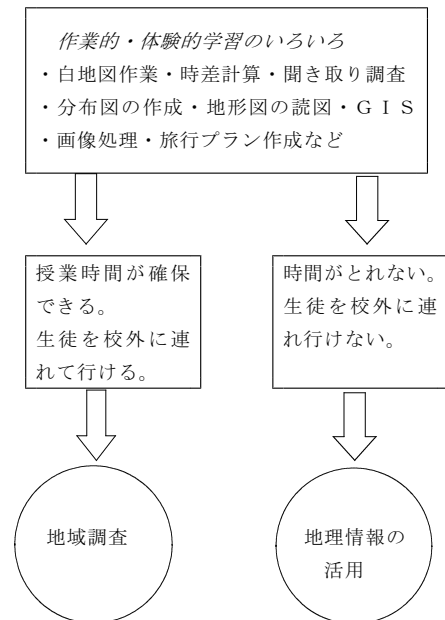


図 1 地域調査と地理情報の活用

### ●地域調査の留意事項

- ・選択授業での少人数（20 名以下）が最適であるが、1 クラス（40 名）ならば T T が望ましい。グループの人数は 3 ～ 4 人とした。
- ・実施時間は 3 ・ 4 限の授業時間の行うことが最良である。
- ・調査開始時に、地形図で必ずルートの確認を行う。
- ・テーマ設定については、時間に余裕があればグループごとに行わせる。今回の野外調査は、ルートでのポイントをあらかじめ決めて観察中心に行う。
- ・野外調査中は目から入った情報や疑問に思った事柄は必ずメモをとる。
- ・野外調査は、自分たちの生活との「関連」また「比較」を行う。
- ・安全のために事前にルート調査は必ず行う。

- ・調査計画を事前に学校に提出することが必要である。

## Ⅲ 実践例

### 1. 1 時間目 地域調査の進め方

以下での地域調査の実践は、次のようなクラス、授業進行の内で行ったものである。

銚子商業高校商業科 2 年 B 組 （40 名）

週 2 時間 2 学期実施

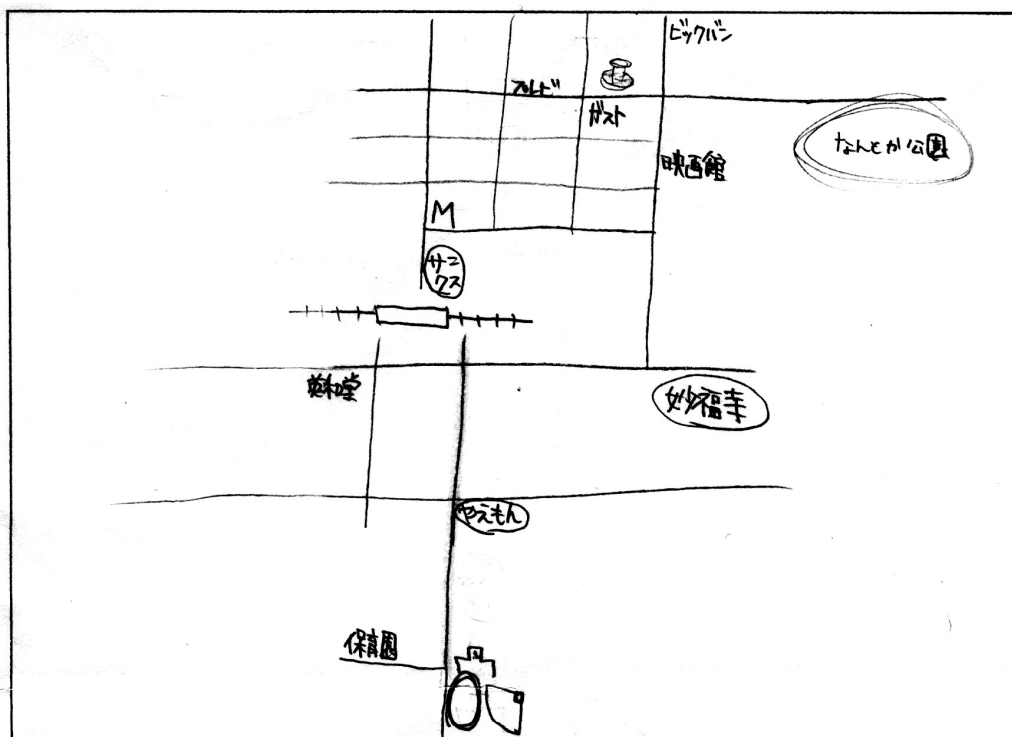
以下では、計 4 時間の授業実践の展開とともに指導案、実際に配布記入されたプリント（授業実践プリント）の例をあげてみていく。

#### ア) 本時の目標

- ・地形図の利用と文献資料をもとに、地域に興味・関心を持たせる。
- ・地域を理解する態度を身に付けさせる。

#### 授業実践プリント 1

【作業 1】学校周辺のメンタルマップを描きなさい。



## イ) 本時の学習展開と評価

【導 入】 メンタルマップを描かせる（作業1）。これにより、自分自身にとっての学校周辺の空間認知を明らかにし、普段の生活と地域への関わりを気づかせる。作業例は授業実践プリント1のとおりである。

【展 開】 身近な地域の変遷を比較するために、新旧地形図を利用しトレースや色塗り作業を行う。都市の発達地域を確認する。（作業2～4）  
学校所在地の町名の由来や地形の発達との関わり

りを考察させる。

地域調査に関する視点を説明する。ポイントの確認や行動観察の留意点・ルートに説明を行う。

【まとめ】 町並みの変遷及び地形的な特性についても、地図化して整理する方法を指導する。

## 2. 2・3時間目 地域調査

### ア) 本時の目標

- ・地形図の利用と野外調査を通して、地域調査に興味・関心を持たせる（図3が実際のルートマップと野外調査の様子）。



①学校周辺のメンタルマップ

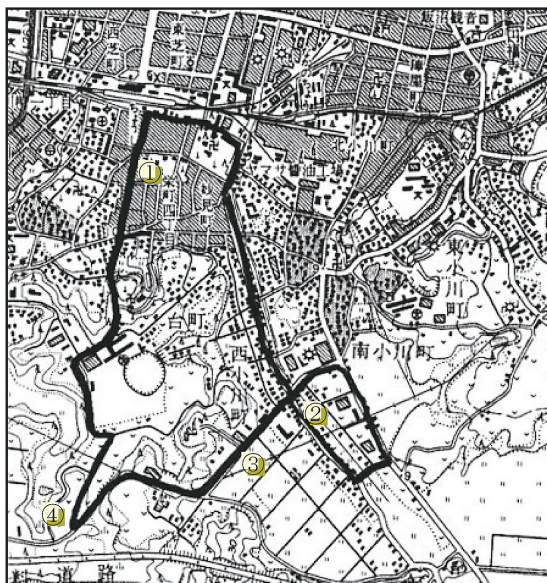


②新旧地形図を比較し考察する。

図2 1時間目の様子



①妙福寺周辺



1:25,000「銚子」×115% 平成12年修正測量



②大型店周辺



④台地の土地利用と風車



③低地の土地利用

図3 地域調査のルートマップと野外調査の様子

作業 2】学校周辺（1／25000：平成12年版）の地形図と作業1で描いた地図を比較する。  
気がついたことをまとめなさい。

学校は思ったより敷地が広がった。（自分で考える面積と地図上では表される大きさが違う）多くの道があった。学校周辺くらい書けるようにしたい。

作業 3】学校周辺（1／25000：平成12年と明治39年）の地形図に①知っている道・建物、②利用している道・建物、③全く知らない道・建物を色分けをせなさい。

作業 4】作業3の結果、わかったことをまとめなさい。

昔の地図と比べると、なくなっている道や逆に新しい道がありました。あまり変わっていない道でも、道幅が広がっているところがありました。

表 1 2・3 時間目の指導案

段 階	学習内容	学習活動	指導上の留意点及び評価
導 入 10 分	調査ルートの確認させる。	地形図上で地域調査のルート確認 ルートをなぞる	地形図上で調査ルートを確認することで地域調査への興味・関心を引き出す。 交通安全の徹底 【関心・意欲・態度】
展 開 75 分	①校門  ②駅裏住宅街  ③ヤマサ醤油工場・妙福寺  ④新しい住宅街・大型店  ⑤低地の土地利用  ⑥台地の土地利用  ⑦風車	地形図で標高を確認する。  学校から駅までの住宅街の立地状況を観察・記録する。  紀國人移住碑から歴史的事項を読みとる。工場の規模や事業について学習する。  新しい住宅や大型店の状況を観察する。  土地利用について考察する。  土地利用について考察する。  実際に実物を見学する。	全員が説明を聞ける場所を設定する。 【関心・意欲・態度】  住宅の密集状況と住宅のタイプ・道の広さ・商業店舗の分布確認をさせる。 【知識・理解】  紀國人移住と寺との関係について考察させる。工場と地域を理解させる。 【関心・意欲・態度】 【知識・理解】  住宅化に伴う道路の整備を理解する。また、大型店出店状況を考えさせる。 【思考・判断】  低地と台地の土地利用の比較を行い、特性を考察する。 【思考・判断】  なぜ風車が多いかを考察させる。地形的な理由についても考えさせる。また現在の風力発電について考察する。 【知識・理解】
まとめ 15 分	点呼 調査用紙の回収 次寺の予告	本時のまとめを行う。	町並みの変遷及び地形的な特性についても地図化して整理する方法を指導する。 【知識・理解, 思考・判断, 表現・技能】

- ・地域を理解する態度を身に付けさせる。

#### イ) 本時の学習展開と評価

これについては、表1にまとめた。また、調査時のプリントは、実践プリント3があり、もとにあるような記入の例があった。

#### ウ) 本時の評価規準

評価規準は次のようになる。

##### a) 関心・意欲・態度

身近な地域に対する関心と課題意識を高め、生活圏・行動圏の地域性について意欲的に学ぼうとしているか。

##### b) 思考・判断

身近な地域をとらえるために、環境条件・歴史的背景・他地域との結びつきなど多面的に考察しているか。

##### c) 技能・表現

身近な地域を観察や調査、資料からの読み取り及び組み合わせる技能を身に付けてらいるか。また、結果を適切に表現しているか。

##### d) 知識・理解

身近な地域を地誌的に考察すること、環境問題についても地域的に考察しているか。

### 3. 4時間目 プレゼンテーション (考察)

#### ア) 本時の目標

- ・野外調査をまとめ・発表を行う。
- ・地域を理解するとともに、興味・関心を持った事項を発展的に考察を行う。

#### イ) 本時の学習展開と評価

指導案は表2、実践プリントは授業実践プリント3と4と5のとおりである。

#### ウ) 生徒から出た発展的考察の例

a) 大型店の進出からは、商圈について・地元商店街について・大型店の利用状況・パーソントリップ・商店街と観光客 など

b) ヤマサ醤油工場からは、なぜ立地しているか・醤油の歴史・地場産業など

c) 妙福寺からは、歴史・紀伊移住について・観光的資源など

d) エコエネルギーからは、地形や自然環境について他のエコエネルギー (ソーラーなど)

e) 土地利用からは、変遷・商圈・後継者問題・作物の特性など

## IV 地域調査を実施しての生徒の反応と課題

学習指導要領の地理A(1)のウ「多様さを増す人間行動と現代社会」の内容の取扱いは、「ウについては、身近な情報を地理情報として活用する技能が身に付くよう工夫すること。」としている。また、エ「身近な地域の国際化の進展」の内容の取扱いにおいて、「エについては、生徒の特性や学校所在地の事情等を考慮し、地域調査実施し、その方法が身に付くよう工夫すること。」とされている。

さらに、学習指導要領の地理Bの(2)においても、現代世界の地誌的考察を主題学習的に取り扱うよう項目が構成されている。これらの課題を地域性を踏まえて追究し、現代世界の課題を認識させるとともに、地理的な見方・考え方を身に付けさせることが大切であるとされているのであり、本実践もその点で指導要領に沿う内容である。

ただし、これが生徒の身となっているかについては、生徒の感想をみると自己評価から評価するしかなかろう。そこで生徒の感想と自己評価をみしてみる。感想と自己評価は、竹内(2002)を参考に作成した表3に収録した。感想としては、「学校周辺なので知っているものが多いと思ったけど、実際に調査してみると違う点もあった」「地形的(高低差)な特徴を実感した」など地域調査を通して、地理学習をより身近に感じる事ができたと思われる内容が多かった。

また、生徒の自己評価から「地域調査」は、「単元に興味を持ってできた」。「調べ活動はどうできたか」においては「よくできた」の割合が多く表れた(図4)。このことから体験的な授業に



☆行程とメモ☆

気付いたことをたくさんメモしましょう。

①銚子商業高校 校門標高34.3m



②駅裏住宅街

細い道が多く、それでも結構、車や人が多く通行していた。  
駐車場が多くあった。



③妙福寺・ヤマサ醤油

紀國人移住碑＝木国会（江戸時代に紀州から移住）

1314年 日高聖人

ヤマサ周辺は醤油の匂いがした。工場出入り口は凄く広い。



④新しい住宅地・大型店

カワチ KASUMI しまむらなどの大型店集中している。  
そのためか駐車場や道幅が広い。  
新しくおしゃれなアパートができています。



⑤低地の土地利用

低い土地なのにキャベツ畑になっている。  
（地形図は田だった）



⑥台地の土地利用

すべてキャベツ畑（風の影響かな）



⑦エコエネルギー

風が強い→風力発電

☆その他気付いたこと

（見つけたことを書きましょう）

高度の差が激しい。思っていた以上に狭い道でも車の通が多い。昔より道幅が広がっている。

地図での比較より実際の変化の方が激しいと思った。

台地と低地の境の住宅は台地側の方が古い住宅が多かった。

☆銚子を歩いた感想

知らない道もたくさんあって、探検みたいだった。神社に入って碑も初めて知った。地形や道の広さを実感した。あらためてキャベツ畑の多さを実感した。

銚子の中の都会的ににぎわっている所と田舎的な所が見れて楽しかった。

〈生徒作成〉



表2 4時間目の指導案

段 階	学習内容	学習活動	指導上の留意点及び評価
導 入 5分	野外調査の冊子をまとめる	冊子のまとめと考察	地域への関わりや関心をもった事柄を発表する 【関心・意欲・態度】
展 開 45分	グループごとに地域調査についての発表を行う。	各グループの検証項目 ・妙福寺について ・ヤマサ醤油（地場産業）について ・土地利用について ・エコエネルギーについて ・大型店進出の影響	具体的な検証項目をグループごとに調査・考察する。 【関心・意欲・態度】【知識・理解】 【思考・判断】【表現・技能】
まとめ 5分	次寺の予告	本時のまとめを行う。	地域調査を通してその方法を学習・考察し、地域への興味・関心をもたせる。 【知識・理解、思考・判断、表現・技能】

## — 授業実践プリント4 —

## 土地利用の変遷（キャベツ畑）

## a. なぜキャベツ畑が多いのか

以前は、甘藷と麦類が中心でした。どちらも価格面・生産面で不安定な所があり、農経営の打開からキャベツ栽培が始まった。なぜ多くなったかは、所得の安定・高い技術水準を必要としない・集団栽培が可能などの条件から多く栽培させるようになった。

## b. いつ頃から始まったのか

昭和28年に始まり、昭和36年に千葉県の特産物になった。

## c. どれくらいの量が栽培され、どこへ出荷されているか

出荷量 約60,000トン

出荷先 千葉青果・柏中央青果・石岡中央青果

## d. 他に何を栽培しているか

平成17年度の作付面積は、キャベツ45%、大根26%、メロン3%、水稲13%、その他10%であった。

## e. 専業農家（後継者問題）はどうなっているか

平成7年に農家総数が1640戸、専業654戸であった。平成17年には農家総数1221戸、専業600戸に減少している。農業関係に若い人が比較的多く、後継者問題についてはさほど心配がない。

〈生徒作成〉

## エコエネルギー

### a. なぜ銚子に風車が多いのか

〈地形的〉風車を設置するための土地が確保できる。

台地のため風を受けやすい。

〈自然的〉海に近いためと半島的な地形であるため風が強い日が多い。

〈人為的〉人家をさけて利用できる土地がある。

現在29基が以内に発電を行っている。

### b. 日本・世界の共通性

北海道・東北（青森）・茨城・鹿児島に多い。千葉県内では、旭市（旧飯岡町）・勝浦・富津市に分布する。世界的には欧州に分布する。海に近く、風が強く吹く地域で。

### c. 一基の価格はいくらくらいか

約3億円かかる。ドイツのメーカーを利用している。国からの補助金は3%である。

### d. 売電について

2000kwまで直接、東電につないでいる。

### e. 他のエコエネルギー

「クリーン車」水素で発電する燃料電池を使用する。

「ソーラーハウス」アルミと強化硝子でできるパネル。

「高温岩体発電」など

〈生徒作成〉

おける生徒の興味・関心が高いことがわかる。こうした、関心がある事象を追究することで、より発展的な学習に結びつけられる。

地域調査を実施し、興味・関心を喚起し、その事象をさらに追究するにあたっては、地域の情報を地理情報として活用することによって、作業的・体験的な学習はより深まることになる。さらには、地域の事象やその事象を他地域と比較することによって地域理解を養うことができるといえよう。

## V まとめ

作業的・体験的な学習は、生徒を主体的に学習させるため、効果的である。しかし、いくつかの課題もある。導入部分で「何のための学習か」ということを生徒に十分に理解させた上での準備や計画が必要である。

また、今回行った、2時間連続での野外調査は、授業変更行いながらの実施であった。複数回の実施はかなり難しいのが現状であろう。長期休業時の課題としての実施もひとつの方法と思われる。

ただし、観察中心の野外調査であれば、1時間



表3 生徒の自己評価表

評価項目	自己評価	感想
単元に興味を持って活動できたか	A B C	
調べる活動はどうでしたか	A B C	
文献を元に考えることができたか	A B C	
まとめはうまくできたか	A B C	

A：よくできた B：だいたいできた C：あまりできない

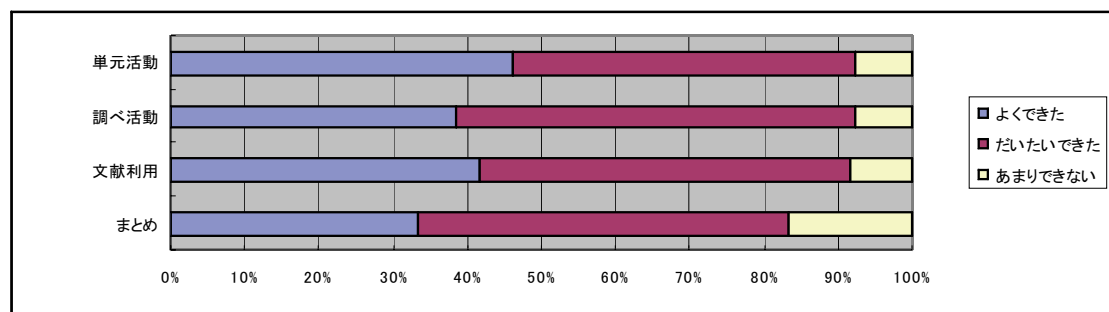


図4 生徒の自己評価

でも可能であり、発展的な事象の学習に展開を行うことで「地域調査」の興味・関心が高まり、より良い学習が実施できる。生徒と共に歩いたり、スーパーマーケットや冷蔵庫品物を調べたりと身近なところから作業的・体験的地理学習はスタートできる。こうした些細ともいえる取組から充実した授業が生まれてくると考える。やはり生徒に『発見』や『なぜ』を感じる機会を与えることこそが重要なのだということが、今日の実践の根幹であり、それは、いつでも、何度でも再認識しなければならないことである。